

グリーンサークル30号

「多摩の雑木林を歩く」発行記念

赤羽 誠、内城 葉子、高野 昭雄、名黒 二郎、小林 功

～クローズアップ～

多摩グリーンボランティア森木会 設立 15 周年記念冊子

「多摩の雑木林を歩く」発行について

多摩グリーンボランティア森木会 副会長 赤羽 誠



ドクダミ

多摩グリーンボランティア森木会(しんぼくかい)は2001年(平成13年)10月から多摩市との協働事業として多摩市グリーンボランティア講座を実施することから活動を開始し、多摩市内の公園緑地の雑木林の保全活動を続けてきて、2016年(平成28年)に創設15周年を迎えました。15周年を記念して、森木会として記念になる事業を実施しようと会員から意見が出て、2016年6月から検討を始めました。

15周年を記念すると言っても、森木会の活動の歩みを記録・紹介するものではなく、多摩市内でのグリーンボランティア活動の成果を見てもらえるように、各活動団体の活動場所の雑木林で見られるみどり(植物・生物など)を多様な形で紹介することを考えました。森木会の構成団体である「なな山緑地の会」「一本杉公園みどりの会」で活動場所の植物を紹介するリーフレットや写真アルバムを作成したり、個人的に植物の写真を撮ったりしていた会員も多くいましたので、15周年記念冊子の作成を目的と

して会員からメンバーを募って編集委員会の活動を開始しました。

まず、森木会の12団体の活動場所で見られる植物リストの作成を開始し、多摩市内の雑

木林の植物を網羅していると思われる、樹木209種、草花257種のリストが作られました。次に、植物リストから多摩市の雑木林を代表する、特徴のある、あるいは、希少種であるなどを見ながら、冊子に掲載する植物を選定しました。その選定リストに基づき写真を会員から集め、最終的に、樹木102種、草花105種を選定しました。この植物リストは現在の多摩市の雑木林の現状を表すとともに、継続的に調査を行うことでグリーンボランティア活動の効果、成果を見る資料とすることができるようになります。

合わせて、雑木林に行ってみたくなるような写真を各団体の活動場所を選定してもらい、最終的に多摩の雑木林の特徴をよく表す写真12枚を「雑木林の12景」として編集委員会で選定しました。また、多摩市長の阿部裕行氏に「多摩丘陵と親子二代の夢」というコラムを寄稿していただきました。収集した植物の写真は季節ごとに並べて、早春から冬に向けて配置しました。こうして「多摩の雑木林を歩く」というタイトルの多摩グリーンボランティア森木会15周年記念冊子が2018年(平成30年)1月に完成しました。多摩グリーンボランティア森木会の各団体、会員を始めとして、グリーンボランティア活動に関係する皆さまの力を結集したものが出来上がりました。

冊子を作成するにあたり公益信託「多摩まちづくりファンド」の2017年度の助成金をいただくことができましたので、無料で配布することができるようになりました。

多くの人に、この冊子を持って、多摩市内の雑木林を歩いていただくとともに、これらの多様な環境を持った雑木林の保全活動に携わっていただける方が増えていくことを願っています。



～活動団体クローズアップ～

イチリンソウ どんぐり山を守る会 内城 葉子

どんぐり山の手入れを初めてもう30年くらいになります。この山は造成された部分と元々の山の部分とで構成されています。ここは残念ながら水が湧くようなところが無く、やや乾燥気味です。山頂は盛土でかためられて、そのころは草もあまり生えていない状況でした。雨は地表を流れU字溝に流れていく。そこで何とか雨水でも少し溜まるような環境を作れないかと溝を作り、実験してみました。それが功を奏したのかイチリンソウが顔を出し始めました。（今まで気が付かなかっただけかもしれませんが・・・。）その年は葉だけでした。正確な数ではありませんが、翌年1～2輪咲きました。皆で踏まないように刈らないように、印をつけたりロープで囲ったりし、見守っていました。年々少しずつ数も分布範囲も広がっていきました。



イチリンソウ

イチリンソウはスプリングエフェメラルと呼ばれる「春植物」の仲間です。春、落葉樹たちが葉を広げる前に花を咲かせ、葉を広げた夏には地上部は枯れ、姿を消してしまうので「春の妖精」と呼ばれています。ニリンソウもアマナもカタクリもその妖精たちです。6月には全く姿を消して、そのイチリンソウが消えたあとにはキバナアキギリが葉を広げ始めています。このキバナアキギリは木陰が好きなのですがそれでいて陽も好きなので木陰でありながら林の縁を好みます。他の植物も勢い



キバナアキギリ

よく草刈りは刈るものと残すもの、と判別が難しく草刈り泣かせ。でも貴重なのでこれも増やしたいと思い草刈り機は使わず、手刈りで少しずつ草刈りをしています。どんな花かあまり知らないかもしれませんが。クリーム色したサルビアを想像してください。「多摩の雑木林を歩く」の25ページに載っています。

名前は聞いたことがあるがどんな花だろう？逆によく見かけるが名前は？そんな時、この本は軽く調べるのに手ごろな本だと思います。そして興味があればさらに図鑑で詳しく調べてみる。そんな手掛かり、足掛かりの本になればと思います。

「多摩の雑木林を歩く」発行記念

一本杉公園みどりの会 高野 昭雄

緑豊かな多摩市の雑木林、公園緑地等を保全管理している「グリーンボランティア森木会」は15年過ぎ、記念冊子「多摩の雑木林を歩く」が発行されました。編集された皆様はご苦労様でした。

雑木林等をボランティアの皆様が保全管理し「アズマネザサ」等を適度に刈払いしたことにより多数

の野草が林床に姿を現し、希少植物の「タマノカンアオイ」をはじめいろいろな花々が育っています。

「一本杉公園」はエリアを「山桜の森」「有山家の森」「螢沢の森」「古道の森」「見



マヤラン

晴しの森」に分け、それぞれの特徴を生かした管理をしています、その中で野草等の数は70種以上になります。「多摩の雑木林を歩く」で紹介された以外で希少と思われるものは「マヤラン」「カラスビシャク」などがあります。

私は「グリーンボランティア講座初級」を修了し、「一本杉公園」で活動して14年になり、それまでに撮影した野草、樹木、キノコ、鳥、蝶等の写真を集めて「一本杉公園植物アルバム」を2011年に初版、2015年に改訂版を作りました。グリーンライブセンターに置いてあります。ご意見を頂ければ幸い



シヤクジョウソウ

です。その後2016年には「シヤクジョウソウ」が見つかりました。(これは「多摩の雑木林を歩く」には掲載されていません)。「マヤラン」は2010年7月に初めて見付き、当初名前が解らず、図鑑やネットで名前が判明するともやもやがすっきりします。その後最初の場所では見られませんが、他の場所でたくさん見られる様になりました。

「シヤクジョウソウ」「ウメガサソウ」は八ヶ岳の「多摩市民の森」でのボランティア活動で2009年7月に初めて見ました。その後前述のように多摩の雑木林にもあるのを発見し、多摩の雑木林の自然の豊かさに感激しています。2017年には「ウメガサソウ」が見つかりました。(これは掲載されていません)

その他、「シュンラン」「フデリンドウ」「エビネ」「サイハイラン」「トンボソウ」「キンラン」「ギンラン」「オカトラノオ」「ホタルブクロ」などたくさん見られます。毎年花が咲くのを楽しみにしています。また、「オオムラサキ」「タマムシ」などの昆虫、「カワセミ」などの鳥も見られ、自然にあふれる「一本杉公園」が楽しみです。

今後も新しい植物等が見つかるのを楽しみにしています。

多摩の雑木林を歩く

亀ヶ谷緑地班 名黒 二郎

素敵な冊子が出来上がり表紙の緑の林の風景が直ぐに森の中に誘うようです。私は亀ヶ谷緑地となな山緑地で保全活動していますが、それぞれ趣が有り楽しんでます。

冬は冬枯れの木立の中遠くまで見通せ、冬芽が膨らんでくると春の兆しだと感じスプリングエフェメラル(春の妖精)の出現を心待ちします。キンラン、ギンランが華やかに咲く初夏が過ぎ今、梅雨が始まり雑木林は木々の緑がすっかり濃くなり野草たちも背が高くなり緑一色です。

木立の間を時折通り抜ける風に癒されながら草刈をし、夏の女王ヤマユリの開花を待ち望みます。それぞれ花の時期は短いですが一年を通して何かしら目を楽しませてくれます。

この場所に来ると気持ちが自然に落ち着き穏やかになれる、緑の空間はそれだけでかけがえの無いも

のと感じます。里山保全活動に私が加わったのは“第二の人生”に押し出される時でしたがこの活動を通じて地元の人達と知り合いそこから色々な方面に興味を持てるようになりました。これからも多摩の里山の豊かさを伝える一助になれば幸いです。



ヤマユリ

多摩しみどりのかわら版

豊かなみどりにグリーンボランティアの活動あり

多摩市環境部公園緑地課 小林 功

多摩グリーンボランティア森木会 15周年記念冊子『多摩の雑木林を歩く』の発行、誠にありがとうございます。

多摩市の公園や緑地に残されている雑木林の荒廃が散見され始めたことをきっかけに、2001年(平成13年)10月に多摩グリーンボランティア森木会(以下、森木会とする。)が創設され、その翌年2002年(平成14年)には保全活動を担う仲間づくりのため、多摩市との協働で「多摩市グリーンボランティア講座」を開講し現在に至っています。

この講座は、現在第17期、29名の方が受講されていますが、第16期までに523名が受講し433名の方が修了、このうち延べ362名の方々が森木会に入会登録してきており、現在は12の団体で約250名の会員の方々が、市内の公園や緑地の雑木林で、概ね月2回の保全育成活動に取り組んでいます。

多摩市の約6割を占める多摩ニュータウンエリアは、多摩丘陵の一部を切り開き新たな住宅地として造成されたものですが、高度経済成長を担う住宅供給事業としての草創期からは多少後発だったことなどが幸いし、事業手法の工夫と合わせ、極力、自然地形を残しながら地域の歴史や文化の継承にも努めた事業を展開してきました。その結果、多摩市内には雑木林や竹林を含め、たくさんの「みどり」が日常生活の身近な所に広がっています。いっぽう、造成から既に50年が経過するなかで、各々の樹木の成長と共に手付かずの樹林地では、環境の悪化に合わ

せ、ともすれば不法投棄の場となる所も出始めました。

こうしたなか、市と管理協定を結び保全育成活動に取り組んでいただいている多摩中央公園はじめ12箇所の樹林地では、間伐や剪定を行い林床の草刈りなど人の手が入ったことで、キンランやギンラン、タマノカンアオイ等の貴重な野草、さらにシジュウカラやウグイス等の野鳥類も多く見られるような樹林地本来の環境が戻ってきています。活動している皆様に“感謝”感謝”です。

多摩市では“愛でるみどりから関わるみどりへ”のキャッチフレーズのもと《みどりのルネッサンス運動》を展開しています。森木会の皆様方は、この運動の実践者であり、最近お馴染みの「健幸都市・多摩」の実現への先駆者でもあります。引き続き、末永くよろしくお願い致します。

最後になりますが、創設当初より森木会を主導して来られた川添会長、副会長として会長を支えてこられた赤羽副会長はじめスタッフの皆様方に、改めて感謝申し上げます。

編集後記

森木会の活動としては15年を迎え、市民が愛でるだけでなく関わることで、豊かな植生や環境が創出され保たれようとしています。多くの方に市内の豊かな環境を知ってもらいたいということ、一緒に活動する仲間が増えたら嬉しいな・・・という思いから「多摩の雑木林を歩く」の冊子を発案しました。実際に多くの方にこの冊子を手に取りながら、身近な雑木林を歩いていただけたら嬉しいです。冊子の発行を記念した観察会も四季それぞれで企画しました。ぜひご参加ください。(高澤 愛)

表紙の絵

「ドクダミ」(ドクダミ科)

絵・内城 葉子

群生している様は美しいのですが、庭に入り込んだら大変です!

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。



ギンラン

多摩市グリーンボランティア通信 グリーンサークル30号

発行日:2018年7月1日

編集・発行責任:多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tgcl/>